



74 金銅製四環壺 一点(三の丸尚蔵館)

奈良県橿原市和田町、明日香村豊浦・雷

古宮遺跡

金銅製 高三六・五

飛鳥、奈良時代

鑄造によつて作られた青銅製の壺の全面に、鍍金を施している。現状では、緑青(銅から出る緑色の錆)に覆われている。本来は蓋があつたと考えられるが、現在には失われている。蓋は口をふさいだ後に、壺の肩につけられた四つの環におそらくは鎖を通して縛ることで、誰でもが開けられないように強固に閉じていたと考えられる。

本資料はやや扁平な球形の壺である。日本で出土している金銅製の容器の中では際立つた大きさで、中国と日本のどちらで製作されたかは不明である。外面には全体に文様が施されている。肩から胴部にかけては、流麗な唐草文と、緑青によりほとんど見えないが鳳凰と考えられる四つの鳥形文がある。そして、口縁部には雲形の文様、高台には草花形の文様が施されている。また、主体となる文様どうしの隙間は「魚子」と呼ばれる小さな円形文で埋め尽くしている。

出土状況は、水田の下から偶然に掘り出されたものであり、その後出土地の発掘調査も行われたが、詳細を明らかにするデータは得られなかったため、用途や性格については明らかでない。

しかし、際立つた大きさの金銅製の本体を、全面にわたつて彫金により装飾するなど、当時においても、また金工史上においても特筆すべき位置を占めるものであることは間違いない。

肩部～胸部の詳細

胸部下半魚子文の詳細

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古代の造形——モノづくり日本の原点

三の丸尚蔵館展覧会図録No.78

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十九年九月二十三日発行

© 2017, The Archives and Mausolea Department  
The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shōzōkan  
Imperial Household Agency